

10月3日 健康福祉委員会

実効性のある 子どもの貧困対策を

議案質疑

愛知学園の小中学校 学習にふさわしい場に

提案された補正予算9,393千円について、子どもの貧困対策をどのように進めていくのかとの質問に対して、県は「学習支援をするボランティアの養成、子ども食堂についてフードバンクを利用した食糧支援のニーズ等の調査などを行っていく」と答弁しました。わしの議員は、「すべての子どもが健やかに成長できるよう、実効性のある子どもの貧困対策を今後も積極的に施策するよう」要望しました。

愛知学園の小中学校設置のための補正予算6182万円の内容についての質問に対して、県当局は、「教室、廊下の改修、空調の整備、机・棚・本などの購入に使用する」と答弁しました。愛知学園での小中学校の設置は県議団としても従来から求めているものです。わしの議員は、「学校教育の場にふさわしくなるよう」要望するとともに「生活棟についても子どもたちの声を聴いて生活しやすいよう改善するよう」要望しました。

障害者への 就労支援の充実を

一般質問

高すぎる国保税 これ以上上げないで

障害者の法定雇用率は現在2%ですが、来年4月から精神障害者の雇用を新たに含めて2.2%に引き上げられます。しかし、県の障害者雇用率は1.85%（全国は1.92%）で全国46位と、きわめて悪い状況です。

わしの議員は県の「愛知健康福祉ビジョン2020」を示して県の就労・雇用対策を問い合わせました。県当局は、「福祉的就労の場である就労移行支援事業の質の向上をはかるとともに、平成30年度から始まる就労定着支援事業も活用していく」と答弁しました。

わしの議員は、「就労を希望する人が安心して働くように応援すること」を強く要望しました。また、（株）障害者支援機構が経営に行き詰まり北区と清須市で利用者69名が解雇された件を問い合わせ、「働く意欲がある障害のある人が、特性に応じて能力を十分發揮できるよう就労の支援が必要だ」と訴えました。

国民健康保険の都道府県化に向けて、市町村からの納付金の第3回試算結果が出ました。前回2月の試算結果と違い、国からの財政支援1200億円、愛知県分97億円が反映されるとともに激変緩和措置が35市町村に対して行われています。

わしの議員は、「一般会計からの繰り入れはどうなるか」と質問しました。県当局は「法定外繰り入れは市町村の判断。赤字分の繰り入れは計画的に削減・解消をめざす」と述べました。

また保険料水準の統一化についての質問に対しては「保険料率の平準化が目的にはなっているが、各市町村の医療費水準は1.7倍の格差があり、平準化には問題がある」との認識を示しました。また、今後のスケジュールについては「11月の仮算定までに納付金の算定ルールをきめて来年1月には本算定を行いたい」としました。

わしの議員は、「現行の高すぎる保険料をこれ以上上げないよう、ひきつづき法定外繰り入れの継続ができるよう」強く求めました。

